

## スポーツ鬼ごっこの「学習指導要領」への導入にあたって必要なこと

(鬼ごっこ総合研究所 主席研究員) 平峯 佑志

キーワード: スポーツ鬼ごっこ、学習指導要領、学校教育、体育

### ■はじめに

本研究では、スポーツ鬼ごっこを初めとして、鬼ごっこ協会で取り扱っている数百種類の各種鬼ごっこのプログラムを、文部科学省が定めている「学習指導要領」という、教職員向けのカリキュラムに導入をされるように、鬼ごっこ協会としても積極的に働きかけている中で、必要とされる要素とは何かについて検討を行ったことを述べていきたい。スポーツ鬼ごっこは、特に競技特性上からも、学校教育の現場で必要とされる要素が多くあるので、その意義や効用を踏まえて導入を推進していくために必要な要素を考察していく。そして、本研究では、「スポーツ鬼ごっこ」の導入推進について、論点を絞るものとする。各種鬼ごっこについては、広範にわたり論点が分散するため、敢えて取り上げないで考察している。

### ■学習指導要領とは

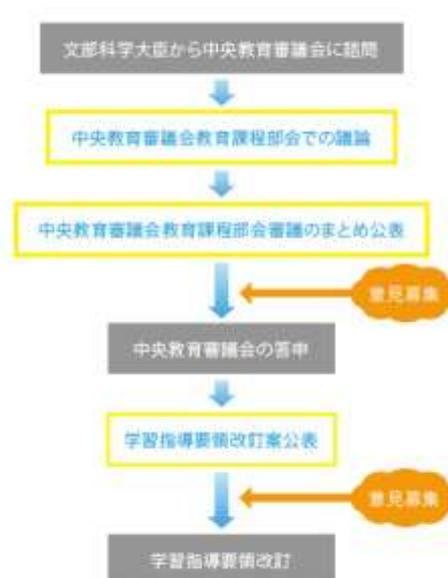
「学習指導要領」とは、文部科学省が定めている教育課程の基準とされている。この基準をもとにして、小学校や中学校の教科書や時間割が作られている。国立、公立、私立学校に適用されるが、私立には影響力は少ないと言われている。日本政府が定める法律である学校教育法第1条に規定されている各学校の各教科で教えられる内容を、下位法として定められた文部科学省が所管する省令として定められた学校教育法施行規則の規定を根拠に、教育課程を定めているのが学習指導要領である。10年ごとに、

これまで改定は行われているのが慣例である。

### ■学習指導要領ができるまで

形式的な流れとしては、文科大臣が中央教育審議会という、文科省の諮問機関に国民からの要望があるということを確認します。中教審内で教育課程について議論を踏まえて、審議内容がまとめられ公表されます。続いて、パブリックコメントが行われる。そして、再度、中教審がこれまでの議論の経緯や結論を踏まえて、学習指導要領の改定案が公表される。最後に、改めてパブリックコメントが行われ、国民の意思と認められた場合に、文科大臣が公示を行い、改定が行われることになる。

図1, 学習指導要領ができるまで



(引用: 文部科学省公式HP)

### ■体育における鬼遊びの立ち位置

学習指導要領における鬼ごっこは、「鬼遊び」という言葉に変えられている。小学校学習指導要領、第2章各教科の中の、第9節の体育の項目において、第1学年及び第2学年の内容のE項目「ゲーム」の中で、ボールゲームと鬼遊びの2つが取り上げられている。また、「体づくり運動」の項目は、1学年～6学年まで含まれているが、鬼遊びとは書かれていないが、類似するようなレクリエーションが含まれている。

### ■スポーツ鬼ごっこ導入の目的

スポーツ鬼ごっこの導入は、第1～2学年、第3～4学年、第5～6学年の「ゲーム」の項目において、それぞれルールや内容、目的を変えることで組み込むことができると考えている。理由としては、ボールを使う、ゴール型ゲーム、ネット型ゲーム、ベースボール型ゲームは、競技特性上で得意不得意が大きく表れて、取り組むことが困難な児童や意欲の少ない児童がいることが予見されるが、スポーツ鬼ごっこであれば、運動神経の良い悪い関係なく取り組めることから最適であると考えている。また、各学年の「体づくり運動」の項目にも、各項目にあるようなゲーム性の乏しい運動要素を、鬼ごっこを基軸にした遊戯性のある楽しめる要素に改定することで、体づくり運動としての目的達成へと貢献できると考えている。

### ■導入へのプロセス検討

スポーツ鬼ごっこの学習指導要領への導入を推進していく中で、組み込まれるまでのプロセスについて、検討していきたい。

#### 1, 政府関係機関の理解と共感

文科省やスポーツ庁の関係各局の担当役人とのネットワーキングと理解と共感。

#### 2, 中央教育審議会の理解と共感

中教審の審議委員を務めているメンバーとのネットワーキングと理解と共感。

#### 3, 各地方自治体での活動の蓄積

都道府県や市区町村の小学校での、スポーツ鬼ごっこの導入事例の収集と整理。

#### 4, 指導員・審判員の育成体制の構築

学校教諭向けの指導員・審判員の育成システムを構築して、人材育成を行う。

#### 5, 意義効能のデータ化

スポーツ鬼ごっこの児童実施にあたっての効果や意義についてデータを整理する。

### ■他の選択肢

これまで、体育の項目における検討のみを行ってきたが、学習指導要領の中には他にも、鬼ごっこ協会の活動において子ども達に貢献できることがあると、私は考えている。大きく2点ある。

#### 1, 外部との連携の構築

2, 主体的・対話的で深い学び（アクティブラーニング）

以上の2点についても、体育におけるスポーツ鬼ごっこや鬼ごっこの導入への検討に加えて、第2ステップとして取り組んでいきたい。

### ■おわりに

2019年8月現在も、日本各地の学校でスポーツ鬼ごっこを取り入れている事例は、数多く存在している。各小学校での導入事例について、フォーマットを作成して、アンケート調査を行うことも解決策の一つであると考えている。また、学習指導要領に準拠した、教育現場の体育教科に沿ったプログラムを開発して、情報発信やマーケティングの仕組みを構築していきたいと考えている。